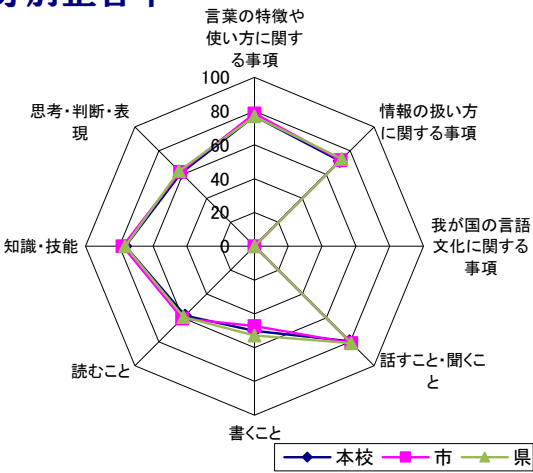


宇都宮市立東小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	77.0	78.6	76.9
	情報の扱い方にに関する事項	71.4	72.2	73.1
	我が国の言語文化に関する事項	0.0	0.0	0.0
	話すこと・聞くこと	79.5	81.0	81.1
	書くこと	50.0	47.2	52.8
観点	読むこと	58.0	60.5	59.3
	知識・技能	76.4	78.0	76.5
	思考・判断・表現	61.4	62.3	63.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、77.0%であり、県の平均と同程度である。 ○第3学年で学習した漢字の読む設問や、ローマ字で表記されたものを読む設問においては、いずれも県の平均と同程度できている。 ●漢字を正しく書く設問においては、3問中2問で県の平均を下回っている。	・漢字を読む力、ローマ字表記を読む力は概ね身に付いてきていると思われる。今後も基礎・基本の徹底を図り、漢字を正しく読んだり書いたりできるようにしていく。また、漢字の練習では、間違えた漢字を正しい形で繰り返し練習したり、熟語の意味を調べて例文を作って書いたりするなど、工夫して取り組めるようにしていく。
情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は、71.4%であり、県の平均をやや下回っている。 ●国語辞典に載っている言葉の正しい順番を選ぶ設問において、濁点、半濁点、長音記号の順番を正しく理解できていないことから、県の平均を1.7ポイント下回っている。	・国語辞典を使う機会を増やし、慣れることで、辞典に載っている言葉の順番を理解できるようにしていく。同時に、意味調べの時間を設定し、教科書の文章などわからない言葉については辞典で調べる習慣をつけるようにする。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、79.5%であり、県の平均をやや下回っている。 ○話し手が伝えたいことの中心を捉える設問や、司会者の話し方の工夫についてとらえる設問においては、県の平均を1.6ポイント上回っている。 ●自分の考えを理由を挙げながらまとめる設問に置いて、記述式になっていることから、県の平均より10.6ポイント下回っている。	・話す・聞く学習の際は、声の大きさや速さ、強弱など、声の出し方のみならず、話の中心や話の構成に気を付けながら話せるように、学習を進めていく。自分の考えを伝えることができるようにするために、考えの根拠も発言できる場を設定する。
書くこと	平均正答率は、50.0%であり、県の平均をやや下回っている。 ○文章を書く際、指定された長さで書いたり、指定された段落構成で書いたりするなど、出された4つの条件のうち、指定された段落数で文章を組み立てることができており、県の平均より4.7ポイント上回っている。 ●理由や事例を挙げて、自分の考えを明確にして文章を書くことにおいては、県の平均より6.2ポイント下回っている。	・自分の考えを書くことができるようにするために、行事の振り返りや日記等思いを書く時間を設けるようにする。また、理由や事例も交えて書くことができるよう、互いの文章を読み合い、お互いのよいところや改善点について伝え合う時間を設け、表現力の向上を図る。
読むこと	平均正答率は、58.0%であり、県の平均と同程度である。 ○文学的な文章の叙述を基に登場人物の気持ちや場面の様子について捉える設問で、県の平均より上回っているまたは、同程度到達している。 ●説明的文章の叙述を基に文章の内容を捉える設問など、4つの設問のうち3つは県の平均より下回っている。	・文学的文章の読み取りについては、力が付いていると考えられる。説明的文章の読み取りに課題があるので、情報と情報の関係について読みを深め、話の中心となる語を見つけたり、要約したりする学習活動を通して内容を捉えることができるようにしていく。